資料３－１

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

（報　告）

一般社団法人国際女性教育振興会（静岡県支部）

【開催趣旨・目的】

未来を担う子どもの健やかな発育・成長のため、親をはじめとする大人の働き方・家庭生活を見直すために、静岡県内の幼児教育施設の視察から得たものと、国際女性教育振興会が行った海外視察から得た諸外国の実情を交え、子どもを中心に据えた保育・教育の充実「子ども目線でのワーク・ライフ・バランス」を考える。

【シンポジウムの名称・テーマ】

地球社会を共に生きる

～子どものまなざしから考える　ワーク・ライフ・バランス～

【日時】　平成 25 年 9 月 30 日（月）１３：００～１６：００

【会場】　静岡県男女共同参画センター　あざれあ　４階第一研修室

（静岡県静岡市駿河区馬淵１丁目１７－１）

【参加者数】９１名（主催団体スタッフを除く）

【プログラム】

１３：００～１３：０５

開会挨拶　鍵山祐子氏　一般社団法人国際女性教育振興会代表理事

１３：０５～１３：４５

報告　「子どもの置かれている現状に視点をあてて　～静岡県内の幼保園・認定子ども園の視察研修から感じたこと～　」

黒柳千穂子　一般社団法人国際女性教育振興会静岡県支部事務局長

１３：４５～１４：３０
対談　「子どもを取り巻く地域と幼稚園～スウェーデン・日本・静岡～」
飯野紀代子　静岡県読み聞かせネットワーク会長（静岡県支部会員）
稲葉昌代　　常葉大学短期大学部　保育科特任教授
附属とこは幼稚園長　（静岡県支部会員）

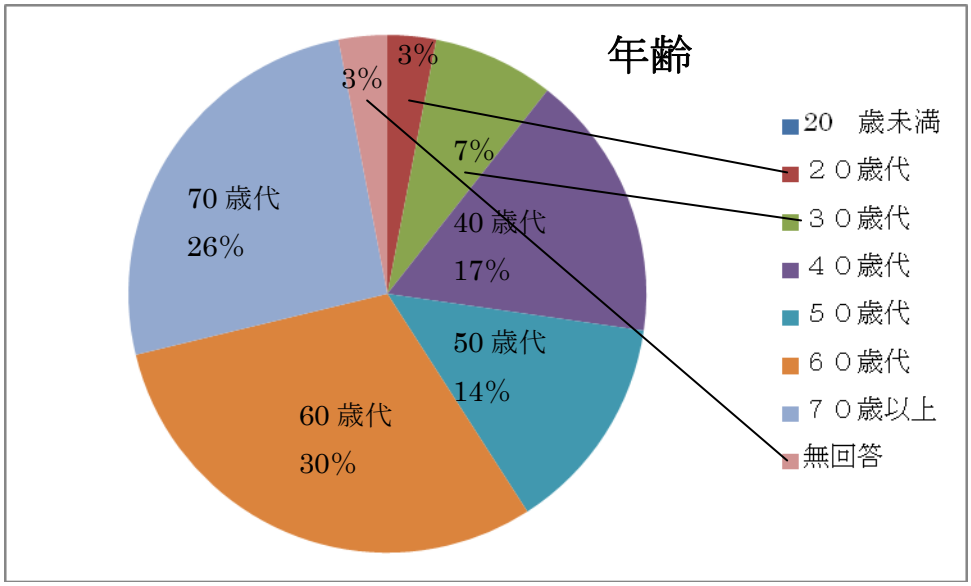
１４：３０～１４：４０　休憩

１４：４０～１５：４０　講演
「子どものまなざしから考える　ワーク・ライフ・バランス」
石原剛志　氏　　静岡大学教育学部教授
１５：４０～１５：５５　質疑応答

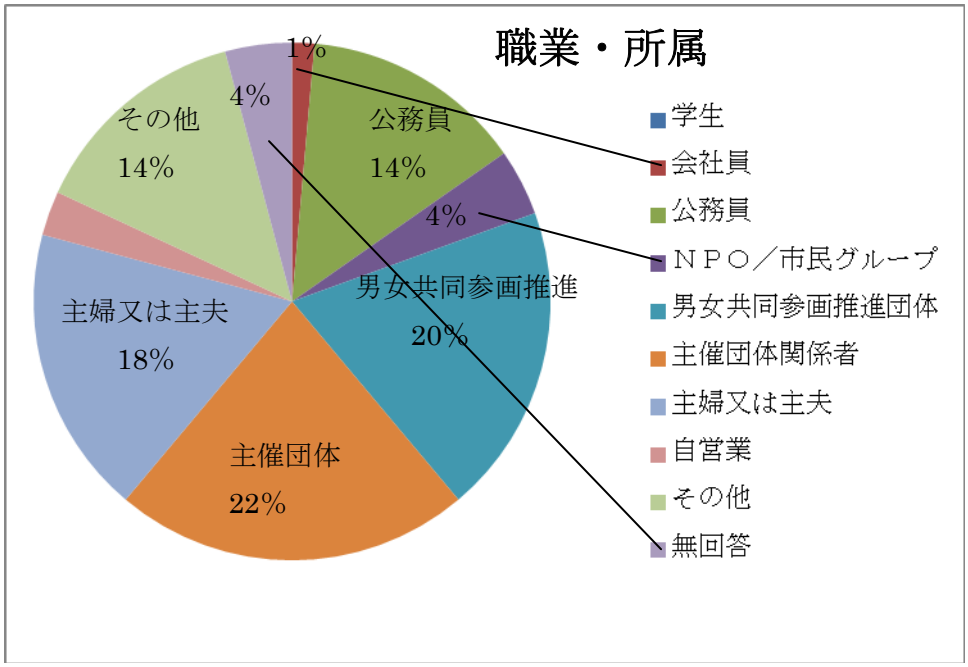
１５：５５～１６：００　閉会挨拶
林　のぶ　一般社団法人国際女性教育振興会静岡県支部長

【参加者からの主な意見】

○参加者の年齢



〇職業・所属



〇第１部について

・幼保園、認定子ども園等の課題をよく理解した。今後の取り組みを示されて、子育てに役立てたい。参考になった。

・行政と国との連携が子どもに影響を与えることが分かった。

・幼稚園のあり方がなかなか難しいと思っていましたが、いろいろお聞きして実感がわきました。

・現在の幼稚園・保育園・幼保園の現状がわかった。もう少し園の具体的な現状が分かると良かった。

〇第２部について

・人口規模や背景の異なるスウェーデンの教育や行政を取り入れるには課題もあるのかもしれませんが、素晴らしいヒントがたくさんあって、静岡に取り入れていけたら本当にいいなと感じました。対談者飯野さんの「地味で地道な活動の大切さ」という言葉が心に響きました。

・幼稚園ではマイオピニオンを持つ子どもの心を育てていきたい。女性が「長」でないと変えられないことが多い。スウェーデンから日本が学ぶべき事などとても共感した。

・幼児教育に限らず教師が変わっていかなければ子どもは変わっていかない、子どもが変われば保護者や地域が変わっていくことが分かります。教師自らが学びを進めていく必要を感じました。

・地域と国、またスウェーデンを参考にすべき点を考えることが出来た。もっと自分の地域について考えなければと思った。

○第３部について

・報道、政治の知識、実体験など幅広い情報源からご説明いただき説得力がありました。「裁量労働制」は、ＷＬＢを難しくしていると思います。とくに、女性が大学教員になると、土日は研究する時間が取れない（家庭にとられる）ので、困難である。アメリカのように裁量労働制であっても子どもがいる人は男性も女性もいったん４：３０に帰宅につくことが必要。家族で夕食をとったあと、大人は仕事をすればよい。

・保育の「量」と「質」の確保。とても難しい課題があると思いますが、人の命を預かる場所である以上、先生のおっしゃる通り、非常に大切な目標であると思います。各方面の知恵を集める努力をするべき大事な問題です。

・父親、教育者としての先生の講演は大変心に響きました。実践なさっている若い世代の生活のお話が、自らの子育て時代を思い出させて下さり、我子の子育てはどうなっていくのだろう？という思いに至ってきました。

・最後の子どものことばから自分のあり方、ワーク・ライフ・バランスの大切さを気づかされたという部分が印象的だった。子どもを気にかける余裕が大切だと気付かされた。

・新しい保育制度改革はよく理解できましたが、質の問題が気になる。

○全体について

・働く女性、社会進出をと、世の中変わりつつある中、子どもを取り巻く環境が遅れている事を感じます。子どもを産んで育てることをよく考えての社会づくりをしていきたいと思います。

・会場一杯の雰囲気が和やかだった。

・ＷＬＢにつては、大企業や公務員には早くから実現できても、零細企業やブラック企業などでは「叶わぬ夢」ですが、それが公的機関のチェック、監査が入ることによって少しでも進むように制度面の整備をぜひとも期待します。

・共働きしている両親を子どもがどう思っているのか、また、自分との日々の関わりについてどう感じているのか知りたかったが、ヒントをもらえました。

・今回の開催は男女共同参画局メルマガにより知って申し込みました。娘の通う小学校の運動会の代休日だったため娘同伴で講演会に参加でき受け入れていただきましたこと感謝しています。三重県からの参加ですが、とてもよかったです。若い人の受講が非常に少ないのは残念、もっと関係団体など広く広報されたらと思います。

・～子どものまなざしから考えるワーク・ライフ・バランス～と言うサブタイトルにひかれて、このシンポジウムに参加させていただきました。自分自身のワーク・ライフ・バランスを考えさせられる内容でした。これからは子どもと過ごせられるよう仕事時間を減らしたいと思いました。良い機会、シンポジウムの時間を過ごすことができました。

・今日のようなお話を、今現在子育て中の当事者に向けてもっと発信して欲しいと思う。

・第３部の講演に対して、幼・保に従事している職員は危機感を持っていないのか疑問に思う。今回の表題をもとに更に掘り下げてほしい。

・老人福祉に携わっていますが、共通する問題が多いことに気づきました。いろいろあり

ますが、株式会社の参入は余程の精査がなされないと事故が増えるリスクが格段に上がります。

【シンポジウムを通して得た成果】

ワーク・ライフ・バランスを保障するためには、地方自治体の幼児教育に対する取組みに負うところが多い。

【今後の課題】

「教育の原点は幼児教育にあり」とふまえ、女性教育、啓発に取り組んできた。
来年度から施行される「子ども・子育て支援新制度」を子どもの側から見つめた、ワーク・ライフ・バランスと、子育て支援の在り方の一つとして、認定子ども園の展開のあり方を追究する。

２５年度実施したシンポジウムから得た課題を中心に、２６年度は、

①政令市（静岡市・浜松市）における新制度に向けた進捗状況を把握する。

②子どものまなざしから考える　ワーク・ライフ・バランスのテーマを継続し、２６年度は、子どものまなざしから考えるところに重点を置き、ワーク・ライフ・バランスのロールモデルを考える。

〇静岡県男女共同参画課と共催で「講演会」を開催する。

８月２５日（月）１３：００～１５：００